

計画策定年月	平成28年 8月
計画変更年月	平成 年 月
	平成 年 月
	平成 年 月
	平成 年 月

向津具地区夢プラン

地域協議会名称：むかつく地域協議会、特定非営利活動法人 むかつく

都道府県・市町村名：山口県 長門市

地域名：油谷向津具地区

第1 地域概要

地理的条件	長門市は、山口県の西北端に位置している。油谷向津具地区はそのなかでも最西北端の向津具半島に位置し、北側は日本海に、また南側は油谷湾に面している。標高は最高部が200メートル強で、海に囲まれていることから概して温暖な気候であり、降雪はほとんど見られない。油谷湾側には、天然の良港である久原漁港、久津漁港、大浦漁港があり、内陸は盆地状となっており本郷、南方などの農村集落が存在する。当地区は、多くの地滑地帯を抱え、指定区域も多い中、棚田状の水田での米作や、長州なかと和牛などの畜産業が行われている。こうした地形を示すなかで、ひとたび災害が起こった場合、集落が孤立する可能性も大きい。
自然的資源	久原、久津、大浦の天然の良港が存在することはもちろん、手長島、江の島から、舟瀬・平瀬といった遠く角島を望む油谷島まわりの海岸線の美しさは当市のなかでも秀でており、特に玄武岩の柱状節理で知られる俵島は、地質学的にも有名である。油谷湾内は波も穏やかで、車えびやまぐろの養殖もおこなわれており、かつ、シーカヤックの隠れた名所でもある。地区の最北端となる川尻岬からの眺望もすばらしい。 また、地区内の水田は、そのほとんどが棚田の様相を示しており、その景観も美しい。向徳禅寺の3千株に及ぶあじさいは6月から7月にかけて見事な花模様を示す。
文化的資源	当地区には、楊貴妃が阿倍仲麻呂と共に安史の乱を逃れて日本に亡命してきたとの伝説が存在し、二尊院には楊貴妃の墓と伝わる五輪塔(山口県指定有形文化財)がある。また、本尊として、鎌倉時代の仏師「法橋院好」の作とされる木造阿弥陀如来立像、木造釈迦如来立像が安置されている。 大浦集落においては、古の時代から海女漁が行われ、海女文化が引継がれている地でもある。また、油谷湾は古くは日露戦争時の日本海海戦において連合艦隊が出撃した場所であり、また、戦艦長門が寄港したことでも知られている。

第2 地域の現状

油谷向津具地区は、本州最西北端の向津具半島に位置し、12集落(自治会)により構成され、人口約1,400人余りのうち65歳以上は約800人で高齢化率50%を超える地域である。 棚田で作られる米をはじめとした農業や、日本海の豊富な水産資源を背景とした漁業が中心の一次産業が主要産業となっている。 近年、少子化や若年層の都市部への流出等による人口減少に伴い、地区内の保育園は2園を統合し1園となり、小学校は1校のまま存続しているものの、中学校は廃校という状況で地域全体の活気が低下している。また、過疎化に伴う生活圏内の商店等の減少や、公共交通機関の減便や撤退により、生活における利便性が低下し、幸福感や達成感、何かをしようという意欲の減退に拍車をかけている。 更に、担い手の不足や消失世帯が増していくなかで、耕作放棄地が増加し、ふるさとへの帰郷の思いや愛着、誇りが薄れるとともに、代々受け継がれてきた地域における伝統的な食文化等も廃頽していくことで、ますます、人口減少が加速し、本来あるべき地域力や集落機能が更に低下するという負のスパイラル現象が起きている。

第3 ふるさとづくりの目的、ねらい

今後、油谷向津具地区は高齢者独居者数が年々累増し、並行して交通弱者や買い物弱者も増加することが予想されるが、詳細な調査は成されていないため「自分たちの地域は自分たちで守り、創っていく」こと、また、「安心して、安全に暮らせる地域、自立できる地域」を目指す上で、生活利便性の確保と地域力の維持・向上の観点でのロードマップの作成が必要と考えている。

ロードマップ作成では将来動態を調査することが不可欠であるが、人口の少ない向津具地区では、個々の世帯状況やニーズが把握しやすいことから、聞き取り調査等により将来を見据えた、地域の青写真、システム（受け皿）作りを実施し、これに従った本計画の増強と補完を目指す。

また、現在、NPO法人むかつくで実施中の生活支援活動である公共交通空白地有償運送事業を継続しながら、ニーズ把握による更なる展開により安心安全の確保を進める。具体的には、協議会とNPO法人むかつくが連携した、見守り体制の強化としてのサロンの開設を進めるとともに、耕作放棄地の解消対策と担い手確保対策として、協議会では放棄地情報の把握を進め、また、NPO法人むかつくでは農業・漁業体験事業を行うことで、地域間交流の活性化を推進する。併せて、中期宿泊型（数ヶ月間程度）の形態整備をNPO法人むかつくにおいて行うことで、本事業に参加しやすい環境を創造し、農業や漁業の担い手の創出や移住支援を円滑に進め、都市部におけるリタイアした団塊の世代の定住を目指す。

高齢者サロンの開設では、元気確認・情報収集のみに留まらず、文化活動、軽スポーツ等を可能にする体制整備を実施し、高齢者が健康を維持し、向津具地区に住み続けられる基盤を構築する。また、一方では、高齢者が自ら考え、持っている技術を生かすことができるよう、代々伝わる伝統料理等を次世代に繋げる事業などを行い、産業育成に繋がるヒントを生み出す場としても活用する。

農業・漁業体験事業では、農業放棄地が、年々増えていることから、担い手につながる事業を展開するため、都市部からの農業に従事したい、また、チャレンジしたい人たちの受け入れ体制（地元農家との連携）の確立を目指し、協議会では空家情報の洗出しなどの住環境確保に向けた取組、NPO法人むかつくでは、中期的な農業体験を受け入れる。若年層からシニア層まで幅広く対象とし、都市部のリタイア層への農業体験の提供も視野に入れ事業着手をしていく。これまでの地域間交流や、地域アドバイザー派遣事業の協議の結果、及び地域内のU・Iターン者との意見交換の中で、高齢者だからこそ保有する知識の活用による一次産業の取組、たとえば地域特性である狭く限られた水源によってのみ可能な自然栽培米などのオーガニック製品の生産などを、行政と一体となって進めるべきとの指摘もあったところであるが、こうした取組も、今、当地域に住まう人達の思いを把握することで、対応方法を考えていく。

また、産業振興の面からは、高齢者の生きがい造成とマッチングを図ったむかつく生産者市場（仮称）の開設や、新たな加工品開発などを進める。

併せて、現行の生活支援活動の延長として、孤立可能性が高い当地区においては、災害発生時の非常食などの備蓄などの地域防災活動が必要とされているところでもある。また、当地区においては漁業集落に特有の密居状態を成す集落が存在しており、住民による消火栓の取り扱い訓練など、自主防災の取組も必要である。

また、当地区内においては、子育て世代が集まり、情報交換できる場が少なく、こうした環境下にあって、知識が豊富な高齢者と子ども、また保護者が交流できる機会の造成も事業化していくこととしたい。

当地区には、豊かな自然や、楊貴妃伝説、海女文化などがあり、これらの地域資源を次世代に引き継ぐための保全活動や、文化継承活動を実施する。当然、これらの地区外への発信により、域外との交流や連携を進める活動も行う。

第4 ふるさとづくりの目標

計画期間：平成28年度～平成32年度

目標

- ◎向津具地区の生活点検を行いロードマップを作ることで、地区内の住民、特に高齢者に関して、安心、安全を確保する事業を進める。
- ◎交通弱者、買い物支援はもちろん、高齢者のサロン開設など、地域内の生活支援に資する事業を進める。
- ◎地域間、世代間の交流を進め、向津具地区の活性化を図る。
- ◎向津具地区の地域資源の情報を域内、域外に発信し、併せて域外者との交流促進を図る。
- ◎新たな加工品等の開発により、産業振興を図る。

【課題】

現状として、人口減少、高齢少子化、地域内生産力の低下などマイナス課題が多い。しかし、向津具地区ならではの豊かな自然に魅せられたIターン者の増加など、プラス要因もみられるなかで、地域への経済効果も今後出てくることが想定される。この動きを加速させることが、本地域での課題のひとつである。また、現在、居住する高齢者が、いかに健康を維持したまま、向津具に住み続けられるかを考え、活動していくことは、既に高齢化率が50%を超えている当地域において、特に重要な課題である。このため、これまでの地域やNPOにおける活動を更に強化し、高齢者の閉じこもり防止や交通弱者等高齢化社会に対応した体制整備を図る。また、向津具地区に特化した「農業体験交流型」プログラムの開発、地域資源を活用した観光交流人口の増加を目指す。加えて、特産品開発と効果的販売に寄与する事業を展開し、向津具ブランドの構築を促進する。そのための、地域内人材育成プログラムの作成も、大きな課題である。

併せて、半島部最西端に位置し、孤立可能性の高い地域であることから、防災上の取組も重要な課題である。

【今後の活動方向】

ふるさとづくりの目標を達成するため、向津具に住む人の意見集約を効果的な手法で行い、これに基づく計画により、地域づくりを地域コミュニティとNPOの双方で連携しながら行う。そして、情報発信及び意識啓発を行い、地域資源を守りながら、新たな住民・団体のネットワークの構築や新産業・特産品の創出を図り、向津具の地域活性化に寄与するため、次の事業を行う。

- ① 環境 豊かな自然保全事業、観光地景観保全事業
- ② 福祉 高齢者対策事業（公共交通空白地有償運送事業、買い物支援事業、高齢者サロンの開設）
- ③ 防災 災害時食料確保推進事業、共助による防災マップの作成
- ④ 教育 被災地の子どもたちとの交流事業
- ⑤ 観光 地域資源の発掘、地域資源マップの作成
- ⑥ 産業 中期宿泊型農業体験交流事業、伝統料理教室、地域産品販売事業
- ⑦ 文化 海女文化発信事業
- ⑧ 総務 将来動態・意向調査の実施、地域協働シンポジウムの開催、地域内外への情報の発信

【期待される効果】

少子化・高齢化社会に対応した事業、向津具の自然・農作物・文化を生かしたツーリズム事業などの魅力あるふるさとづくりを展開することで、人口減少を少しでも食い止めるとともに、U J I ターンによる人口定住を促進する。さらに、交流人口が増加すれば、雇用の創設や、地場産品の販路拡大につながり、経済効果が期待できる。

そして何よりも、住んでいる自分達が誇りを持って住み続けられる地域とし、かつ、魅力ある向津具を内外に発信することで、住民が元気になり、地域活性化の一助となる。また、自分達の住んでいる地域の将来を自分達で考えていくことで、地域に愛着を感じ、地域コミュニティの育成に結びつけていくことが可能となる。

第5 事業計画 総括表

区 分	活動事項	活 動 内 容	現在の活動状況	実 施 スケジュール
1. 向津具地区の生活点検を行いロードマップを作ること、地区内の住民、特に高齢者に関して、安心、安全を確保する事業を進める	◎過疎地域等自立活性化推進交付金による向津具地区将来動態調査	・向津具地区の各世帯、特に65歳以上で構成される世帯の聞き取り調査による地域の将来像の把握 (別添報告書のとおり)	実施済 (NPO法人むかつく)	27年度
		・地域協働シンポジウムの開催	実施済 (NPO法人むかつく)	27年度
2. 交通弱者、買い物支援はもちろん、高齢者のサロン開設など、地域内の生活支援に資する事業を進める	◎高齢化などで共同作業が不能となった集落の活動支援	・地域内でのボランティア登録者による自治会依頼作業への参画	実施中 (むかつく地域協議会)	27年度～
	◎高齢者の健康寿命を延ばすための高齢者サロン開設	・デマンド交通を活用し拠点に参集した健康な高齢者を対象とした高齢者サロンの開設	実施中 (NPO法人むかつく)	28年度～
	◎特色ある高齢者向け健康講座を実施可能な施設整備	・サップヨガなどを活用した高齢者向けプログラムを開発し、このための施設整備を行う	未実施 (NPO法人むかつく)	31年度～
	◎むかつく生産者市場の開設	・高齢者を中心とした生産者と消費者が集えるマーケットを開設し、高齢者の健康増進講座も併せ行う	未実施 (NPO法人むかつく)	29年度～
	◎公共交通空白地有償運送事業の実施	・地域内の基幹的集落中心地のバス停までのデマンド交通を事業化する	実施中 (NPO法人むかつく)	25年度～

区 分	活動事項	活 動 内 容	現在の活動状況	実 施 スケジュール
2. 交通弱者、買い物支援はもちろん、高齢者のサロン開設など、地域内の生活支援に資する事業を進める	◎買物代行業	・農協向津具支所が運営するYショップと連携した買物代行業の実施	未実施 (NPO法人むかつく)	31年度～
	◎災害時食糧確保推進事業	・農協向津具支所が運営するYショップと連携した食糧確保事業の実施	未実施 (NPO法人むかつく)	32年度～
	◎共助による防災マップの作成	・地域ワークショップの開催により、防災マップを作成し、全戸配布する	未実施 (むかつく地域協議会)	32年度～
3. 地域間、世代間の交流を進め、向津具地区の活性化を図る	◎地域子育て支援事業の実施	・地域食材を活用した食育による三世交代交流と地域内外の子ども交流を併せて実施する	実施中 (むかつく地域協議会)	26年度～
	◎地域内外の子ども達が交流できる施設整備	・少子化により域内小学校の児童数が少なくなる中で、より見識を広めるための地域内外交流を実施するための施設整備を行う	未実施 (NPO法人むかつく)	30年度～
4. 向津具地区の地域資源の情報を域内、域外に発信し、併せて域外者との交流促進を図る	◎景勝地の景観保全活動	・地域内観光地周辺の視界を悪化させる雑木の除去や、花苗の植付などを実施	実施中 (むかつく地域協議会)	26年度～
	◎地域外の子ども達を対象とした体験交流事業	・向津具地区の四季折々の地域資源を活用し、子どもと保護者を対象とした体験型交流事業「むかつくキャンプ」を実施する	実施中 (NPO法人むかつく)	28年度～

4. 向津具地区の地域資源の情報を域内、域外に発信し、併せて域外者との交流促進を図る	◎自然散策路のルート開設	・ウォーキング、サイクリング等のルートの開設と、案内板等の設置	未実施 (NPO法人むかつく)	29年度～
	◎耕作放棄地を活用した農業体験ツアーの実施	・むかつく地域協議会で収集した情報を基に、NPOにおいて農業体験ツアーのメニュー構築と地域おこし協力隊などと連携したツアー実施を図る	未実施 (NPO法人むかつく)	28年度～
	◎古民家再生プログラム開発	・地域内移住者等の技術的支援を基に、廃屋等を買取り、古民家改修を行い移住者の増を図る(現在、トライアル事業を実施中)	実施中 (NPO法人むかつく)	28年度～
	◎豊かな自然保全のためのイベントの実施	・行政と連携した海岸清掃イベントの実施	実施中 (母なる海を守る会)	21年度～
	◎被災地の子ども達との交流事業	・福島県など東日本大震災の被災地の小学生や保護者を呼び込んだ交流事業を実施	実施中 (NPO法人むかつく)	26年度～
	◎地域資源マップの作成	・過疎地域等自立活性化推進交付金により向津具地区の地域資源を紹介する「ムカツクマップ」を作成	実施済 (NPO法人むかつく)	27年度
◎伝統料理教室の開催	・過疎化と世代交代により、地域の特性が失われつつある中、地域の良さを伝承していく事業として伝統料理教室を開催する	実施中 (NPO法人むかつく)	27年度～	

4. 向津具地区の地域資源の情報を域内、域外に発信し、併せて域外者との交流促進を図る	◎海女文化発信事業	・大浦地区で引き継がれている海女の文化を全国に発信する	実施中 (NPO法人むかつく)	26年度～
	◎地域内外への情報の発信	・向津具地区を全国に発信するための地域ポータルサイトを立ち上げる	実施中 (NPO法人むかつく)	27年度～
5. 新たな加工品等の開発により、産業振興を図る	◎農林水産物加工場の整備の検討	・廃校施設等を活用した農林水産物加工場の整備を行政と連携し検討、実施する	未実施 (むかつく地域協議会)	32年度～
	◎地域資源を活用した商品開発トライアル	・農産物やシーグラスを加工し販売するためのトライアル事業の実施	実施中 (むかつく地域協議会)	26年度～
	◎新たな農作物の生産トライアル	・高齢者でも生産が可能な、負担の少ない農作物の生産を検討し、試験生産する	未実施 (むかつく地域協議会)	29年度～
	◎移動販売車による地域産品を使った調理・販売	・長州ながと和牛生産者と連携した移動販売車による地域生産野菜等使用のカレー販売	未実施 (NPO法人むかつく)	30年度～

第6 地区の組織体制

(1) 地域協議会の概要

地域協議会の名称		代表者氏名	事務局所在地	
むかつく地域協議会		阿 部 和 男	山口県長門市油谷向津具上958番地1	
設立年月日	主な活動内容	主な活動地域		会員数
		長門市油谷向津具		
平成26年 8月26日	新たな地域製品の開発と自治会間の相互連携による活動援助及び地区景観保全活動	長門市油谷向津具		1,397人

地域協議会の名称		代表者氏名	事務局所在地	
特定非営利活動法人 むかつく		嶋 田 日直男	山口県長門市油谷向津具上958番地1	
設立年月日	主な活動内容	主な活動地域		会員数
		長門市油谷向津具		
平成24年 7月 8日	地域ロードマップの作成と、高齢者対策及び、農業体験ツーリズム促進と地域資源発掘・発信	長門市油谷向津具		12人